様式２の１

記　入　日 2024 年　　10 月　　23 日
助成団体名　特定非営利活動法人　植物資源の力

2023年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	**地域の不要材となっている竹を熱エネルギーとして生活の場で利用するプロジェクト**
取り組み実施期間または日時	令和 5 年 11 月～令和 6 年 9 月

【取り組み目的】

2023 年 7 月、国連のグテーレス事務総長は、地球温暖化ではなく地球沸騰化の時代が到来したと警告を発した。 気候変動は、これまで以上に深刻な状況に突入している。

気候変動に対して、どのように対策を試みるのか。同時にどのように身を守っていくのかという問題がクローズアップされた。熱中症警戒アラートが出され、不要な外出を避け、エアコンを使った涼しい屋内で過ごすことが推奨された。それは、都市部に生活する者にとって違和感のないものであるのかもしれないのだが、田舎に住む我々には、別な選択肢があるように考えられた。

このプロジェクトの目的は、過疎高齢化が進むエリアに若者ボランティアを集め、地域の不要材となっている竹を熱エネルギーとして生活の場で利用するという事であるが、もう少しライフスタイルについて考えられる要素が持ち込められたらと考えた。

私の居住する所は、不知火海リアス式海岸で海からやく1km、標高 100mの場所にある。建物は、40 年前に皆で建てた生活学校舎。エアコンは無く、天井の高さ 3mで屋根も一般的な住宅より高い。訪問者の多くは、ここは、涼しいと感想を漏らす。周辺には、雑木が多く茂り、木陰は、家の中より更に涼しい。

人類が生存し続けるためには、場所を選び、建物に工夫を凝らし、脱炭素化石燃料と同時にエネルギー消費を減らす暮らし方にシフトする暮らしを模索しなければならないと考える。

【取り組み内容と成果】

- NPO NICE を通じてボランティアを募り、地域住民と共に可能な限りの竹林の間伐、竹炭を作った。地域の方々からのリクエストで学校での環境学習への参加、地域リビング等の活動に参加した。

地域リビングや環境学習川学校に参加した時の様子

- 出来上がった竹炭の破砕し、壁紙等への添加など燃料以外の使用について検討をした。
- 室内温度測定と竹炭ストーブ使用マニュアルの作成の継続を行いたかったが、気温が高く、竹炭ストーブを使用する機会が無く、できなかった。火鉢での利用は、行った。化石燃料の使用は、ゼロである。

【備考欄】